

マイスターだより

川西町立小松小学校
令和8年6月12日(金) No.9
文責：情野 夏美

犬川小 2、3年複式算数を参観してきました！

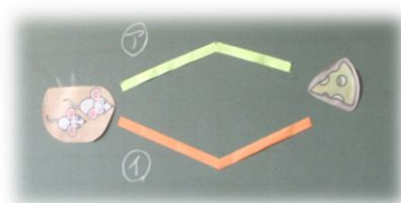
先日、二井先生とともに、犬川小学校の2、3年複式算数科、2年生「長さのたんい」、3年生「長いものの長さのはかり方と表し方」の授業を参観してきました。昨年度まで小松小にいらした、高橋祥子先生の授業でした。祥子先生の芯を問う発問や聞き返し、2学年をまたぐ授業構成が素晴らしく、大変勉強になりました。犬川小の研究の視点に沿って感じたことをご報告させていただきます。

研究主題

自ら課題を追求し、互いに磨き合う子ども

1、視点①問題解決に向けて粘り強く取り組むための工夫 【2年生】

- ・一度、ノートに自分の考えを書いてから、ホワイトボードに書くことで、2年生ながら、自分の考えが整理されていると思った。
- ・電子黒板の問題だけではなく、黒板に紙で作られた問題があった。操作もでき、視覚的に分かりやすいと感じた。



【3年生】

- ・今回は3人で、次は一人でもできるようにするとのことだった。段階を踏むことで、まきじゃくの正しい使い方を理解することができると感じた。
- ・ただ活動するのではなく、タブレットを使うことで正しく長さをはかるための活動になっていた。



2、視点②考えを表出し、学びを深める工夫

【2年生】

- ・児童の発言に対し、すぐに「なぜ?」「これはどう?」「どうやってできる?」という教師の問い返しがあった。一気に児童は思考を始め、課題により向き合えると思った。

- 黒板に貼ったホワイトボード（似ている考えを近くに貼る）の近くに集まって、考えを伝え合うことで、集中して聞くことや分からないときにはすぐに聞き合える環境が整っていた。
- 計算するうえで、児童に迷ったところを問い、同じ単位どうしを足したり、引いたりするとよいという見方・考え方を、児童の困り感から広げておろしていた。



【3年生】

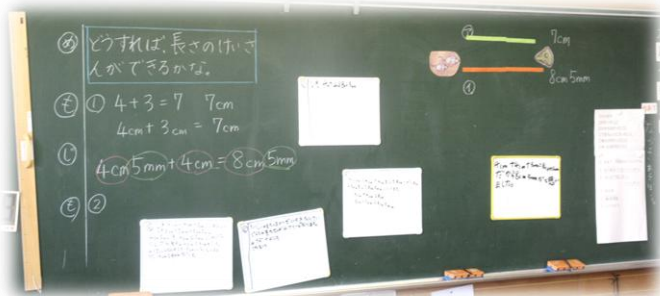
- 前時まで学習したこと（まきじゃくともものさしの違い、まきじゃくを使う時に気をつけること）を問い返しながら、本時の学習につなげる発問を行っていた。
- 全員が「わかった」「できた」を実感できるようにするために、活動を二つに分け（前半は学習室の縦と横、後半は2階にあるいろいろなもの）、前半と後半の間で、児童に困り感を問い、その困り感を児童全員で解決してから、後半の活動を行っていたのがよかった。



3、全体を通して

- ノートの書き方、話の聞き方など、学習の規律がしっかりと整っていました。日頃の授業でのご指導の賜物だなと感じました。
- 2年生と3年生を休むことなく、行き来されていて、複式の授業のすばらしさを実感しました。教材研究も2倍なので大変かと思いますが、同じ領域の単元で授業を組まれていて、系統性があっていいなと感じました。
- 間接指導の際は、自分たちで学習を進めようとする意識が子どもたちの中に合っており、素晴らしいと感じました。学習の進め方も掲示されていて、さらに慣れてくると、学習リーダーを中心にどんどん進められるようになるのだろうなと思いました。

2年生



3年生

